

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)
2021年12月5日

南アフリカの感染者増加はオミクロン株が原因

【松崎雑感】

ワクチン未接種が新型コロナの変異株を作り出す原因になっているという考察は以前からありました。南アフリカからデルタ株とオミクロン株が発生した理由は、単にワクチン接種が遅れていることだけでなく、HIV感染率が多いことではないかという考察です。新型コロナウイルスから見れば、免疫反応が弱いため、ずーっと変異を続けられるという「好条件」が揃っていたのかもしれませんが。ユニバーサルなワクチン接種推進がとりあえず必須と考えます。

南アフリカの感染者増加はオミクロン株が原因

Dyer O. Covid-19: **South Africa's surge in cases deepens alarm over omicron variant.** **BMJ**. 2021 Dec 3;375:n3013. doi: 10.1136/bmj.n3013. PMID: 34862184.

オミクロン株が最初に発見された南アフリカでは、前例のない感染者増加が起きており、この株の感染力がこれまでのどの株よりも高い可能性を示している。

南アフリカ国立感染研究所は、過去に新型コロナに感染した人々の再感染率が極めて高いことを確認している。

プレトリアやヨハネスブルグという人口の多い都市を含むGauteng県が今回のアウトブレイクの中心地となっているが、ウイルス検体の74%はオミクロン株だった。したがって、この変異株はそれまでベータ株にとって代わって優勢だったデルタ株を急速にしのぐ感染拡大をもたらしていることを示唆する。

これまでオミクロン株が発見された23か国では、散発的な流行となっているに過ぎないが、南アフリカでのこの株の爆発的流行を見ると、今後世界全体でどのようなことが起きる恐れがあるかを明確に示している。

欧州CDCの数学的モデルによれば、今後数か月以内に、オミクロン株が欧州連合と欧州経済領域における新型コロナ新規感染者の過半数を占めると予測されている。フランス政府科学顧問ジーン・フランソワ・デルフライシー氏は、1月末までにオミクロン株がデルタ株にとって代わるだろうと述べている。

南アフリカでは、過去の3波には見られなかった速さで新規感染者数の増加が続いている。新規感染者数は、最初にこの株が確認された11月8日には266名だったが、11月23日には674名、12月2日には5092名と激増した。

検査の陽性率も日を追って高くなっている。11月30日4373検体中10.3%、12月1日8561検体中16.5%、12月2日11535検体中22.4%、12月3日16055検体中24.3%。

死亡率も同様に増加している。南アフリカの医療機関からの報告によれば、若い年代の人々の新規感染が多いという。「すべての年齢層で入院数が急速に増えている。とりわけ5歳以下で著明だ」と南アフリカ国立感染症研究所疫学専門家ワシラ・ジャセツ氏は述べている。

南アフリカの成人ワクチン接種率は36%と低い。若年層ではさらに低い。「ソーシャルメディアでの反ワクチンフェイクニュースが、特に若い世代に大きな悪影響をもたらした」と保健相ジョー・ファアラ氏は先月語っている。

ちなみに、オミクロン株が最初に同定されたのは、ヨハネスブルクの23才と34歳の男性症例である。

再感染リスク

オミクロン株感染者のワクチン接種状況はまだ明らかになっていない。ワクチンメーカーは変異内容の分析を行った結果、この変異株にも従来株と同様のワクチン効果が期待できるとしている。

しかし、南アフリカの研究者が投稿したプレプリント論文によれば、自然感染によって免疫を付与された人々では、再感染の危険が従来株よりも高いと示唆されている[1]。

南アフリカでは、過去に初発株、ベータ株、デルタ株という3回の感染の波が発生している。

今回のオミクロン株の波は、まだ公式に第4波とは認定されていないが、過去に自然感染を経験した人々における再感染率が前3波の3倍高くなっているという。

もしそうであれば、自然感染免疫を持つ人が多いが、ワクチン免疫付与率が低いロシア、南アフリカ、米国などの国では、再感染率が激増するおそれがある。

HIVとの関連の可能性が示唆されている

南アフリカのオミクロン株発見者、トゥリオ・デ・オリベイラ氏は、ロサンゼルスタイムズに「免疫機能の低下した一人のHIV感染者に感染した新型コロナウイルスが、体内で、数週間から数か月変異を繰り返した結果多数の変異を備えたオミクロン株が発生したという事が、もっとも可能性のあるストーリーかもしれない」と語っている[2]。南アフリカは、過去にベータ変異株発祥の地となっていたと言われる。

南アフリカの15～49才の人々の19%はHIVに感染している。この免疫が低下しているにもかかわらずワクチン接種率の低い人々を膨大に抱えたこの国は、世界の変異株の「発生工場」の役割を果たしているおそれがあるとオリベイラ氏は警告する。彼らのチームは、アフリカ大陸は、HIV感染率が極めて高いうえ、新型コロナワクチン接種完了率は7%に過ぎないとNatureに投稿している[3]。

WHOにオミクロン株発生の事実を迅速に報告した南アフリカに対して、国際社会は出入国停止という罰を与えた。これによって、南アフリカで何が起きているかが国際社会に伝わらなくなった。多くの航空便がキャンセルされたため、オミクロン株感染診断のためのPCR検査キットと試薬の輸入が途切れて確定診断が不可能となり、検体を海外に送って検査することもできなくなったと南アフリカ国立感染研究所は述べている。WHOもこの状況に警告を出している。